


ふりがな 氏名	うちだ ゆうと	都道府県	愛知県	
	内田 裕斗			
所属/肩書	岡崎市立梅園小学校／教諭			
私の ESD活動	学校教育において、ESDを意識した授業実践に日々取り組んでいる			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

愛知県岡崎市の中心部にあり、一昨年度開校 140 周年を迎えた岡崎市立梅園小学校。本校では、「岡崎市環境学習プログラム」をもとに、地域や子どもたちの実態に合わせた環境学習の実践に取り組んできた。「世界的な視野をもつ子に育てほしい」「他校との交流を通して、子どもの学びを深めたい」という願いから、ユネスコスクール加盟に向けて動き始め、昨年 7 月加盟が決定した。

昨年度、5 年生を担当した。本学級では、総合的な学習の時間「伊賀川のホタルを未来へつなげよう」で、環境維持の意識を高め、主体的に地域へ動きだし、「つながり」を尊重できる子どもの育成を研究主題に立てた授業研究を行ってきた。子どもたちの中に育ち始めた「自分たちの手で、よりよい梅園学区にするために動き出そう」という意識を生かし、さらに ESD を実践していくうえで心がけたい様々な事象との「つながり」を尊重する価値観を、内面から確実に育て、主体的に地域に動き出す子どもに育てていきたいと考えた。授業の実践に当たっては、3 つの仮説と具体的な手だてを立てた。

実践を通して、子どもたちは何度も調査活動に出かけることで学区を流れる川に愛着を持ち、地域の方とともに「ホタルも人も住みやすい環境を作りたい」という気持ちが高まった。学習のまとめとして、地域や他学年の児童に取り組みを伝える発表会を行った。「伊賀川のごみを減らしていきましょう」児童は、地域の方と共に行動していきたいと呼びかけた。

以上のような成果だけでなく、子どもの変化を継続して見つめていく中で、教師である自分自身が、様々な事象との「つながり」を尊重していく重要性に気づくことができた。

今年度は、児童会が中心となり全校児童で「今私たちにできることプロジェクト」に取り組んでいる。被災地、特に宮城県石巻市押切沼団地の方々との交流活動を通して、震災の記憶を忘れない、人を思いやる優しい心を育てる実践を行っている。

・岡崎市立梅園小学校：<http://www.oklab.ed.jp/weblog/umezono/>

・ユネスコスクール加盟校情報：http://www.unesco-school.jp/index.php?key=mut8w9z1y-18#_18

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

一昨年度から本校のユネスコスクール担当を任せられ、様々な研修会に参加した。昨年行われたユネスコスクール全国大会では、環境学習に取り組む先進校の実践を聞き、「すぐに授業で生かしてみたい」と思える取組に出会えた。8 月に東京で行われた教員研修会では、日本ユネスコ協会連盟寺尾先生の講演会で「福島原発のように答えのない問題が多い今日。この答えのない問題を解決しようとする子どもを育てなければならない。持続可能な社会に挑戦できるのは、教育しかない。」という言葉が、心にすんと落ちた。めまぐるしく日々変化する 21 世紀を生きる子どもたちに、教育において ESD のアプローチをすることが重要であると強く感じた。

日本の若者として、まだまだ経験の浅い中でも未来を担う子どもたちを育てる教育者として「ESD とは一体何か」という答えを模索しながら、日々の授業実践の中で試行錯誤しながら取り組んでいる。このことを、世界に発信したい。